

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 出光美術館【東京・千代田】(<http://idemitsu-museum.or.jp/exhibition/present/>)

4月13日(火)～5月30日(日)

企画展：松平不昧 生誕 270年 茶の湯の美

本年は、大名茶人・松平不昧の生誕 270年の記念の年です。本展では、雲州松平家の蔵帳である『雲州蔵帳』をはじめ、不昧が蒐集した茶道具とともに、出光コレクションにおける茶の湯の名品を厳選しました。日本人が憧れ好んだ掛物や花生、茶入や茶碗、水指など、茶の湯にまつわる美術をご紹介します。

(事前予約制です。ご来館前にご予約をお願い致します)



2. サンリツ服部美術館【長野・諏訪】(<http://www.sunritz-hattori-museum.or.jp/schedule/next.html>)

4月24日(土)～7月4日(日)

企画展：華のある暮らし コレクションで楽しむ日本の美意識

サンリツ服部美術館では、絵画・工芸作品を通して日本で育まれた美意識をご紹介します。本展では、絵画に描かれた着物のデザインなどに注目した「美をまとう」、空間を演出するための屏風や調度品を展示する「空間を彩る」、祭事や年中行事に使われた道具を紹介する「ハレの日を祝う」の3つのテーマを通じて、暮らしのなかで育まれた美意識や美術品の魅力に迫ります。人々の暮らしに彩りを添えてきた名品の数々をご堪能ください。



3. 岐阜県現代陶芸美術館【岐阜・多治見】(https://www.cpm-gifu.jp/museum/02.exhibition/02_1.exhibition.html)

4月24日(土)～6月20日(日)

企画展：Human and Animal 土に吹きこまれた命



本展では、人と動物という根源的なモチーフに、土素材を通じて向き合う国内外の5作家、ベス・カヴェナー(アメリカ)、スーザン・ホールズ(イギリス)、奈良美智(日本)、ステファニー・クエール(イギリス)、キム・シモンソン(フィンランド)による陶作品や関連作品、約100点を紹介します。

4. ヤマザキマザック美術館【愛知・名古屋】

(http://www.mazak-art.com/cgi-bin/museum/infoeditor/info.cgi?action=data_list&mode=schedule-current)

4月24日(土)～8月29日(日)

企画展：名古屋城からはじまる植物物語

本展では、江戸時代に狩野派に代表される尾張の絵師たちが引き継いできた花鳥画をルーツとして、その伝統が西洋植物画と融合して、ボタニカルアート、ジャポニスム、アール・ヌーヴォーへとつながっていった流れを展覧します。また、シーボルトに学び、シーボルトに「余は圭介氏の師であるとともに、圭介氏は余の師である」と言われた尾張の本草学者 伊藤圭介(1803～1901)の像に迫ります。



5. 多治見市美濃焼ミュージアム【岐阜・多治見】 (http://www.tajimi-bunka.or.jp/minoyaki_museum/archives/5394)

4月24日(土)～8月29日(日)

企画展：「－世界の巨人に挑んだ器たち－西浦焼－加納 COLLECTION－」

凛と頭をもたげた一輪の芥子の花。アメリカのルックウッド製陶所は、1905年の雑誌の広告に、こんな代表作品を掲載しました。一方、同じような雰囲気をまとった作品が、日本の西浦焼にもみられます。

明治期、日本政府は殖産興業を推進し、万国博覧会に美術品を出品することを奨励していました。そんななか、日本の技術者は、ルックウッドなど当時世界をリードする、それまでの日本にはなかった美しいやきものを目の当たりにします。「こうした作品を作りたい！」という強い思いが芽生えたに違いありません。

ルックウッドは1880年(明治13)に、アメリカのオハイオ州シンシナティに、地元の名士ニコルズ夫人により設立されました。そして、設立当時、社に招かれた日本人技術者、白山谷喜太郎(しろやまたにきたろう)が優れた作品を作り、その基礎を築きました。このすぐれた技術はルックウッド製陶所内で見本とされましたが、同じように作れる技術者はなかなかいなかったといえます。

本展では、加納氏から寄託を受けている加納コレクションの展示企画完結編として、世界の名窯、窯業界の巨人ともいえるルックウッドやロイヤル・コペンハーゲンの作品を中心に、西浦焼と対峙させて展示します。世界の陶磁器会社の動向をひもときながら、巨人に挑んでいった西浦焼の姿をお楽しみください

<同時開催>

4月24日(土)～7月4日(日)

企画展：「西浦焼－電燈所 た襦コレクションを中心に－」

本展では、当館が所蔵する「電燈所 た襦コレクション」を中心に、「西浦焼」をご紹介します。明治末年に東洋一の製陶工場とまでいわれた西浦焼の工場が閉鎖されたとき、こうした秀れたものは二度と焼けないと考え、買い求めたのが、た襦コレクションのきっかけだったといえます。た襦さんが守った美濃の名品をお楽しみください。

